

東京農業大学 vs 朝鮮大学校

9月29日(日)
11:30K.O.
朝鮮大G

3連勝の東農大と、3試合勝利のない朝鮮大との対戦。今季、3年ぶりに2部リーグに復帰してきた東農大は、昇格争いへの参戦を目論む。

その東農大は前節、拓大と対戦して2-1で勝利した。これで後半戦初勝利から3連勝、すべて2-1というスコア。しかも先制点を奪っている。拓大戦は、全体的には相手にボールポゼッションを許したが、カウンターから効率的に得点。相手がPKのチャンスを逃す幸運もあり、反撃を1点に抑えて勝利した。しかし、木村俊夫コーチは「相手の時間帯の時でもピッチ内で選手が声をかけ、焦れずにやっていた」と評価しながらも、「無失点で終わらなかった」と話した。また、前半戦からほぼ固定メンバーで戦っており、「サブも含めたチームの力が必要になってくる」(木村コーチ)。勝点5差の昇格圏をとらえることができるか。

一方の朝鮮大は、後半戦初戦で駒大を破って以来3試合勝利がない。前節は東学大とスコアレスドロー、かろうじて勝点1を積み上げて順位を1つ上げたものの、まだ降格圏を脱出したとは言い難い。前節の東学大戦は、攻守交代の激しい接戦で、今季2度目の無失点試合となった。しかしシュート数は上回るなど勝機もあっただけ

に、惜しい勝点1だったと言える。後半戦まだ3得点だが、金載東監督は「良い形でボールを奪うことはできた。そこから攻撃につなげシュートまでの形をもっと構築しないと」と話す。リーグ戦経験の浅い選手が多い今季ではあるが、そろそろ結果を残す選手が出てきてほしいところ。前回引き分けた東農大を抑え、4試合ぶりの勝利をつかみたい。

<出場停止>なし / 3回警告: 村山翔(東農大)
<前回の対戦>東農大1-1朝鮮大

東農大		朝鮮大	
27. 加藤	19. 岡庭	15. 趙顕一	
3. 田村	6. 中垣内	20. 金慎也	
30. 矢口	14. 石川	16. 韓勇俊	22. 慎鏞紀
	10. 浜田	21. 康貴成	
5. 櫻岡	11. 井上		1. 李在根
	18. 今野	14. 朴利基	4. 許亮
23. 中西		9. 高尚人	
		17. 高志煌	
		24. 鄭壮輝	

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2013-NO.14
編集: 五味亜矢子 発行: 関東大学サッカー連盟 協力: 関東大学サッカーサポーターズクラブ



駒大が首位に勝点1差!

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 2部リーグは第 13 節を終え、いよいよ風雲急を告げてきた。首位の東国大が法大に1-6と大敗し、東海大に1-0で競り勝った駒大がついに首位との勝点差を1に縮めた。前半戦から東国大が首位を独走してきたが、今後、首位争いに動きが出てくるかどうか。そして3位以下は、東農大が拓大に2-1で勝利し3連勝で3位をキープし、4位には平国大に4-0と大勝した青学大が浮上。朝鮮大と0-0で引き分けた東学大の5位は動かず、神大に3-2で敗れた関学大は4位から6位に後退、逆に神大は2つ順位を上げた。

今節は、東国大に大勝して8位に浮上した法大と、2位の駒大との対戦が注目を集める。連勝で降格圏を脱した法大が残りのリーグ戦に

得点ランキング	アシストランキング
8: 小牟田洋佑(駒大) 山本大貴(駒大) 伊東純也(神大)	5: 佐伯拓磨(東国大) 田中雄一(駒大) 碓井鉄平(駒大)
7: 関谷祐(青学大) 富樫敬真(関学大)	今野順(東農大) 長野祐太(神大)
6: 全3名	4: 恵龍太郎(青学大)

旋風を巻き起こせるか。一方で、これで3試合勝利がない首位の東国大は、立て直しを図るか。そろそろ本格的な昇格、残留争いが気になる時期に入る第14節に注目したい。

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第13節終了時)

順位	2部	東国大	駒大	東農大	青学大	東学大	関学大	神大	法大	平国大	朝鮮大	拓大	東海大	勝数	負数	点数	得点	失点	得失差	勝点
1	東国大		100	102	302	201	401	100	400	101	201	301	300(没収)	9	2	27	15	11	29	
2	駒大	001		302	401	402	200	401	200	304	102	200	401	9	3	31	15	16	28	
3	東農大	201	203		101	102	300	103	100	103	101	200	300(没収)	7	4	22	16	6	23	
4	青学大	203	104	101		100	000	201	401	000	102	100	201	6	4	20	15	5	21	
5	東学大	102	204	201	001		004	302	001	301	200	201	201	6	5	18	19	-1	20	
6	関学大	104	002	003	000	400		002	201	300	400	201	300(没収)	6	6	1	22	19	3	19
7	神大	001	104	301	102	203	200		102	301	201	205	102	6	7	0	25	25	0	18
8	法大	004	002	001	104	100	102	201		101	001	102	402	5	7	1	20	22	-2	16
9	平国大	101	403	301	000	103	003	103	101		100	302	203	4	5	4	18	25	-7	16
10	朝鮮大	102	201	101	201	002	004	102	100	001		001	401	4	7	2	13	20	-7	14
11	拓大	103	002	002	001	102	102	502	201	203	100		301	4	8	1	17	21	-4	13
12	東海大	003(没収)	104	003(没収)	102	102	003(没収)	201	204	302	104	103		2	10	1	13	33	-20	7

※東海大は後半戦終了時点で勝点-6となります

東京学芸大学 vs 拓殖大学

9月29日(日)
13:50K.O.
朝鮮大G

2試合連続引き分け中の東学大と、こちらも3試合勝利のない拓大との対戦。どちらも、試合内容に対して結果がなかなかついてこない。後半戦2勝目を奪えるのはどちらか。

東学大は前節、朝鮮大と0-0のスコアレスドロー。勝点1を積み上げ、順位の後退はまぬがれた。しかし、後半戦4試合で1勝1敗2分と勝ち切れておらず、昇格圏を追い越す態勢に入れないのが苦しい。朝鮮大戦は、お互いに決定機もありながら攻め切れず、痛み分けとなった。それでも、西園聡史監督は「無失点でしのげた守備の状態を、次の試合につなげたい」と、焦れずに無失点に抑えた守備面を評価した。今節は拓大の攻撃を抑えられるかがポイントにもなるが、攻撃面を見てみれば朝鮮大戦は結果的にシュート3本に終わっており、バイタルエリアから先に攻め込むシーンが少ないなど課題も残った。徐々に教育実習から4年生も戻ってきており、ここから上位の追い上げにかかりたいところ。

対する拓大は前節、東農大の1-2で敗れた。後半戦初戦で勝って以来、勝利がないが、玉井朗監督は「内容的にはそれほど悪くない。前半戦より良くなっている」と言うように、悪いイメージを抱いていないようだ。し

かし、勝点差が少ないとはいえ11位という現実も見据えなければならない。東農大に対しては、攻め込みながらカウンターから2失点を喫して敗れた。前半、先制点を許した8分後のPK失敗も痛かったが、決定機をどれだけ決めていけるかがカギになる。今節は東学大の攻撃を抑えつつ、どれだけ自分たちの時間帯をつくれるか。結果にもこだわっていききたいところだ。

<出場停止>なし / 3回警告: なし
<前回の対戦>東学大2-1拓大

東学大		拓大	
5. 廣木	8. 佐々木	20. 片	2. 三浦
4. 脇本	13. 中村	24. 末松	4. 金子
	15. 菅		6. 小野
12. 須賀			1. 大坪
	23. 平田		19. 菅能
3. 成田	7. 山崎	11. 内野	31. 高橋
	18. 五十嵐	18. 大森	
20. 京田		26. 小針	

予想布陣は直近の試合を参考に作成しています

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント

成功も失敗も、自分が決める。

部活と就活にメールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
<http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/>

青山学院大学 vs 神奈川大学

9月28日(土)
11:30K.O.
青学大G

4位の青学大と7位の神大、順位を上げたチーム同士の対戦。後半戦4試合で、青学大は9得点6失点、神大は11得点6失点と、やや出入りの激しいゲームが続いている2チームの対戦は、乱戦となるか。

前節は平国大に4-0と勝利した青学大。DFラインを中心に少しメンバーを変更して臨んだ平国大戦は、結果的に後半戦無敗の平国大を無得点に抑えての快勝。しかし、宮崎純一監督は「スコアは4-0だが厳しい試合だった」と振り返った。ここ数試合、試合の後半に攻勢を仕掛けている平国大の攻撃に対し、後半戦は無失点の試合がなかったことから守備ではしっかりとブロックをつくって対応。「押し込まれた時間帯に失点せず乗り切れたのが一番の収穫」(宮崎監督)。DFラインからのロングボールで前半に先制できたことも大きかった。好調の神大攻撃陣をどう抑えるかがポイントだが、速攻と遅攻を織り交ぜた攻撃にも期待したい。

対する神大は後半戦3勝1敗。1敗したとはいえ、内容的には上向いている。失点はまだ多いものの、先に失点すると「ずるずると崩れなくなったのが前半戦とちがうところ」(高峯弘樹監督)というように、失点しても下を向かず、また攻撃陣が点を取れるという自信がつい

てきたようだ。前節の関学大戦は、早くも後半戦2度目の対戦で、お互いに相手を知り尽くしており、前半は攻撃の起点を抑えられ終了間際の42分に失点。しかし後半に入って53分、67分とすぐに反撃。相手の運動量が落ちたこともあるが、FW伊東純也(3年)へのサポートが多くなり攻撃に厚みが出てきた。さらに上位への浮上を狙いたい。

<出場停止>なし / 3回警告: 芦野翔斗(神大)
<前回の対戦>青学大2-1神大

青学大	神大
20. 服部	6. 秋山
16. 恵	7. 長野
5. 京谷	14. 芦野
10. 木澤	28. 武田
12. 高橋	6. 高山
8. 後藤	21. 池村
14. 伊藤	16. 前田
15. 水島	10. 伊東
11. 本城	8. 須郷
3. 早田	4. 向山
	3. 高木

駒澤大学 vs 法政大学

9月28日(日)
11:30K.O.
東海大G

今節最大の注目カード、2位の駒大と8位の法大との対戦。首位に勝点1差と肉薄した駒大に対し、首位に大勝した法大がどう挑むか。

駒大は前節、最下位の東海大に1-0で競り勝った。その前の試合と同様、攻め込みながら1点を奪うことに苦労したが、76分ようやくサイドに開いたMF碓井鉄平(4年)からのクロスを通じたMF立石忠之(2年)が決めて決勝点を挙げた。「先週も前半は圧倒的に攻めたが苦労した。先週よりは粘れた」と、秋田浩一監督はホッとした表情だった。何度も攻め込んでセットプレーのチャンスをつくりながら、前半戦のように得点につながられていないのが苦戦の一因でもあるが、流れの中ではさらなるサイド攻撃の活性化が求められる。また、東海大戦で相手GKと激突し負傷退場したFW山本大貴(4年)の状態が心配されるが、選手たちはその分も奮起してくるだろう。首位の追い上げなるか。

対する法大は前節、東国大に6-1と大勝し、はまれど怖い攻撃力を見せつけると同時に不振だった攻撃面の自信を取り戻したことだろう。先制点は15分。その後前半だけで10本のシュートを放って3点を奪い、完全に試合を掌握した。6得点という点数が注目されるが、

この日は守備でもピッチ全体で高い集中力を見せたことが大きい。大石和孝監督は「まだマークが浮いているところがある。きっちり行けるようにしたい」と話したが、ボールへのプレスと連動した動きが精度の高い攻撃につながった。首位チームに続いて2位も倒し上位の追い上げを図れるかどうか、今節も集中力高く臨みたい。

<出場停止>なし / 3回警告: 碓井鉄平(駒大)、田代雅也・西室隆規(法大)
<前回の対戦>駒大2-0法大

駒大	法大
3. 田中	17. 森保
11. 小牧	24. 白石
4. 平尾	14. 松本
7. 碓井	2. 宗近
9. 小牟田	5. 岩淵
22. 野村	30. 吉岡
6. 若山	1. 四宮
5. 伊藤	6. 星
17. 平野	15. 高橋
13. 大木	16. 松田
	27. 田代
	30. 永戸

関東学院大学 vs 平成国際大学

9月28日(土)
13:50K.O.
青学大G

6位の関学大と9位の平国大、こちらは順位を下げてしまったチーム同士の対戦。連敗を止めたい関学大に対し、平国大は勝点3差の相手を倒して上位進出への布石を敷けるか。

関学大は前節、神大に2-3で敗れて2連敗中。神大には後半戦初戦で敗れていたこともあり、前半は高い集中力と厳しいプレスで対応、42分に先制点を奪った。しかし、「前半は0-0でいいと言っていた。点を取ったことで少し守りに入ってしまったかもしれない」と石村大監督が話したこと、前半の運動量の高さが体力の消耗につながってしまったことで、後半は疲れが見えたところを突かれて失点を重ねた。「自分たちのスタイルは十分出せた内容だった。それだけに悔しい」(石村監督)。後半戦3敗目を喫し、昇格争いへの参戦がやや遠くなってしまっているが、ここを踏ん張れるかが、まだ若いチームには大きな経験にもなるはずだ。

対する平国大は、後半戦2連勝のあと2試合勝利がない。前節は青学大に4点を奪われ、0-4で敗れた。内容的には点差ほどの差は感じられなかったが、好調だった後半戦初の敗戦に対し、西川誠太監督は「自分たちをもう一度知るという意味で、まだまだ未熟だったという

感じ」と話した。立ち上がりは青学大が予想以上に慎重だったこともあって優勢に攻め込んだが、ロングボールから30分に失点すると10分後にも失点。後半も良い流れの時間帯を多くつくりながら、得点を奪うには至らなかった。4失点はしたが、2点は攻めあがった後半終了間際。切り替えて今節に臨みたい。

<出場停止>なし / 3回警告: 土館賢人(関学大)、小松崎雄太(平国大)
<前回の対戦>関学大3-0平国大

関学大	平国大
2. 吉田	16. 増田
24. 普光院	11. 千葉
4. 久保	26. 小松崎
11. 萱沼	6. 本田
7. 太田	10. 堀越
1. 守山	30. 馬屋原
3. 土館	9. 星子
27. 原島	5. 鎌田
9. 富樫	2. 須藤
8. 山本	19. 堀越
6. 木村	3. 深井

東京国際大学 vs 東海大学

9月29日(日)
13:50K.O.
東海大G

ここ3試合勝利のない首位の東国大と、後半戦未勝利の最下位・東海大との対戦。実際には今季初の対戦となるが、勝点3を奪えるのはどちらか。

東国大は前節、前半戦は4-0と大勝した法大に1-6と、今回は大敗を喫してしまった。法大にとっては大敗した雪辱と、前回の対戦の分析もあるだろうが、東国大としては「前半戦にうまくいっていたので少し色気が出てきて、選手の意思統一ができていないと感じる」(前田秀樹監督)というバランスの悪さを突かれた敗戦と言える。前後半とも3失点、シュート数は6-17と、法大の気迫あふれる守備と爆発したら怖い攻撃力を見せつけられてしまった。DF阿部正紀主将(4年)のゴールで意地を見せたが、「6点も入ったということは組織が崩壊したということなので、もう一度見直す機会にしたい」(前田監督)。2位との差が縮まり、本当の順位争いの中で内容と結果の伴うゲームができるかどうか、これから真価が問われることとなる。

対する東海大は後半戦3敗1分。前節は駒大の攻撃をよく抑えていたが、最終的には0-1で敗れた。降格回避に向けて厳しい戦いが続いているが、結果だけを求めるというより自分たちのスタイルを築こうという姿勢が

見える。スタメンも1~2年生が増え、個々には技術力の高さを見せる選手も複数見られる。前節の駒大戦を含む後半戦の戦いに対し、後藤太郎監督は「相手のポイントを消すことはできるが、別のところでやられている。しかし地道にやるしかない」と話す。まずはシュートの形を多くつくりたい。

<出場停止>赤崎俊太(東国大) / 3回警告: 小山真司(東海大)
<前回の対戦>東国大3-0東海大(没収試合)

東国大	東海大
6. 鹿糠	26. 小野
7. 佐藤	27. 北原
5. 川島	3. 小山
10. 若井	31. 赤田
9. 福島	34. 吉田
21. 今野	19. 永吉
14. 上船	29. 内山
3. 阿部	25. 溝口
8. 清水	23. 木村
11. 高橋	16. 寺尾
2. 伊東	5. 元田